

自己評価票

1丁目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を管理者、職員は理解し、自分達で事業所独自の理念を作成した。	○ 理念に基づサービスを提供するよう心掛け、新しい職員が入職した時には、自分も再確認しながら伝達していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者が笑顔で生活できるよう理念を理解し、日々のサービス提供場面に反映させるよう取り組んでいる。	○ 理念を念頭に置き、日々サービス提供に努めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関に理念を掲示し誰でもわかりやすいようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣住民に気軽に立ち寄ってもらえるような、働きかけは特に行っていない。地域活動に参加し、交流を持つなどの機会もできていない。	○ 自治会行事や地域の方々に参加している行事に参加していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価を職員全員で行ったが、意義を理解して取り組んでいない。	○	改善点がとても難しく、どのように取り組めばよいか分からないが、なるべく努力していきたい。
6	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営推進会議では、報告、情報交換が行われており、メンバーの意見を取り入れる努力をしている。	○	利用者が心地よく生活できるよう、努力していきたい。
7	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	管理者が行っている。		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	権利擁護事業、成年後見人制度について理解を深める取り組みを行っていない。	○	今後、研修があればいいと思う。また、理解を深めるための取り組みがあればいいと思う。
9	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	高齢者虐待防止法に関する理解を深める取り組みをしていない。	○	高齢者虐待防止法を知り、理解を深める機会が欲しい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、解約をする際は利用者・家族等の不安・疑問等を尋ね、十分な説明を行っている。	○	利用者・家族に十分に理解をしてもらえるよう努力していきたい。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。利用者の言動から本人の不満や意見等を察するようにしている。	○	利用者が意見等を気軽に言えたり、上手く意見をだすことができない利用者に対しても不満等を察していけるよう今後も取組んでいきたい。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族に面会の際に、日頃の様子等を報告している。それとともに、定期的に健康状態や金銭管理の報告、職員の異動等についても知らせている。	○	今後も継続していきたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置している。		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議にて、意見を聞く機会を設けている。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の要望等に柔軟に対応できるよう、勤務調整を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要以上の職員の異動等は行っていない。また、異動時には引き継ぎを行うようにしている。	○	このままの配慮を続けていく。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での勉強会を実施している。	○	外部研修への参加の機会を増やし職員を育成していきたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流はできるだけ多くあればよいと思うが、交流はない。	○	地域の同業者と交流する機会がまだないので、今後交流を図り質の向上を目指したい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間は確保されているが、職員のストレス軽減に向けての取り組みをする良好な工夫については配慮に欠けている。	○	職員のストレス軽減に向けた配慮をしてほしい。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断を実施している。	○	運営者、管理者は職員個々の努力や実績などを把握し、向上心を持って働けるようにしてほしい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者が家族と本人話を聞くため訪問し、両方の納得・合意のできるようにしている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応できることは柔軟に実行し、すぐに対応できないことは方策を検討している。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを利用できるよう、相談受付時から利用者の視点に立った支援を行っている。	○ 家族ともっと話をし協力を仰ぎながら、利用者の望むことに対応していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に生活していくという考え方で、できることは職員と一緒にいるようにしている。	○ 利用者のできることをもっと引き出し、利用者から色々なことを学んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時には、生活の様子を伝えるようにしている。また、職員は利用者を家族から依頼を受け、家族の代役として利用者を支えていると考えている。	○	利用者の子や孫のような関係になれるようにしたい。また、家族との情報交換を密に行い、思いを把握していきたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係が途切れないように、日々の利用者の様子を面会や電話、手紙等で伝えている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じて、利用者にとってなじみの場所へ出掛けられるようドライブ等を行っている。	○	スタッフ同士、連携をとりながら出掛けられるような場面を作っていく。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握するようにし、利用者が孤立しないよう配慮している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関係を継続する体制にはなっていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向、希望を把握するよう努めている。	○ 希望や意向を十分に出せない利用者に対して、職員同士情報を交換し話し合っていきたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のプライバシーに配慮しながら生活歴やライフスタイル、価値観等を把握するよう努力している。また、家族からも情報を収集するようにしている。	○ 利用者のプライバシーを守りながら、一人一人のライフスタイルの合わせ、サービスの向上に努めたい。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の暮らし方、生活リズム等を把握しケース記録に記録をしている。体調・心身の状態・行動面等いつもと違いはないか声掛けしながら把握するようにしている。	○ 利用者のできること・分かる力をもっと把握していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の生活状態をケース記録に残しているが、それ以外に感じたこと等ないかをユニット会議で話し合い、検討をしている。	○ 今後も利用者にとってより良い介護計画の作成を目指したい。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の変化に対応し、本人、家族との連絡を行い相談している。その後の経過については会議にて意見を出し合い話し合っている。	○ 利用者の状態変化等に気づけるよう、十分な観察をしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日々の様子や身体状況等を記録しており内容も職員皆で共有できるようになっている。	○	ケース記録の記入漏れのないようにし、全職員でケアに臨んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状況にあわせて、その時々々の要望に応じて外出支援したり、場合によっては家族と連絡をとりながら対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の意向に応じ、図書館等の地域資源を活用できるよう働きかけている。地域の民生委員・ボランティア団体の存在の把握はできていない。	○	地域のボランティア団体にグループホームがなじむまで、ある程度の年月が必要と思う。その活動がくるまでゆっくりと待つしかないと思う。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理容サービスは利用しているが、その他のサービスはまだ利用されていない。	○	ももっと色々サービスがあれば利用していきたい。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見人制度の利用が必要な場合等は事業所内で解決できない困難事例がある場合には、地域包括支援センターと連携し、支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	本人・家族の意向を踏まえ医療と協働し、要望があれば取組んでいきたい。
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	事業所、医療機関、家族との連携を図り可能な限り支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	このケースはまだ体験していないが、利用者が別の場所に住むことによるダメージは理解している。	○	利用者のことを一番に考えていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	大事な内容の話や聞かれたくない話などは、利用者の自室でするようにしている。また介助時の声掛けは利用者の羞恥心に配慮している。記録類は簡単に目にするものないように保管をしている。	○	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉掛けや対応に注意していきたい。また個人情報保護法についても学習していきたい。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者との日々の関わり、家族からの情報により利用者の希望・関心・嗜好等を把握するよう努めている。	○	もう少し利用者の嗜好等を取り入れていきたいと思っている。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペース、体調等に合わせた無理のない支援を行っている。	○	利用者の希望に沿って、事業所と話し合っって無理のない支援を取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	髪の毛の乱れはその都度整えるようにしている。希望に応じて希望の美容院へ出掛ける支援を行っている。	○	協力理容院があるので希望時や時期を見て行ってもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況・意見に応じ調理の準備、後片付けを促し一緒に行っている。	○	職員とともに片付けや調理を行っているが、一緒に食事はしていない。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	たばこを希望する方があれば、他利用者の迷惑がかからないよう支援する準備ができています。	○	本人の希望を取り入れるよう利用者の好みを今後も聞いていきたい。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを記録し把握に努めている。また汚染時には速やかに他入居者に気づかれないよう交換をしている。	○	汚染時は自室へ誘導して他入居者の前で行わないようにしているが、今よりもっと配慮できるよう、どのような方法があるか考えていきたい。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕方、夜間入浴は行っていないが、できるだけ利用者の希望を聞くようにしている。しかし、職員の都合で決めている部分はある。	○	入浴の希望を一人ひとりにあわせていけるよう、希望を聞いていきたい。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者は個々に休息をとりたい時にとれるようにしている。また一人ひとりの体調やその日の活動状況にあわせ休息を促している。	○	個々によりパターンは異なるが、どうしても眠れない方は医師に相談している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりにあった役割や楽しみ事を促す働きかけは行っているが、なかなか上手くいっていない。力量の把握が不十分である。	○	1回/月通常行っているレクをもう少し大がかりな物を行うようにしている。それと一人ひとりに合った役割を見出すため、力量を把握していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望や家族の希望に配慮しながら、自ら金銭管理を行っている人もいる。しかし殆どの方は職員が代行管理している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の身体状況に合わせ気分転換になるよう、希望があれば支援している。	○	できるだけ勤務体制に合わせて外出支援し、気分転換がはかれるよう支援していきたい。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	職員から希望をとるのではなく、利用者から希望がでるようにしたい。(話し合う場は今はない)	○	希望をだしやすい雰囲気作りが必要と思われる。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より希望があった時は相手を確認し電話をしている」。手紙は書き終えて封をしたものをポストへいれている。	○	今後も継続して取組んでいきたい。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	暗い雰囲気を作らず、プライバシーを考慮しながら職員も明るく接するようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしていないが、禁止行為を十分に理解していない。	○	やむを得ず拘束をしなければいけない時は家族に説明をし同意を得たい。また身体拘束について勉強をしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室等利用者の日常的に出入りする場所は鍵をかけておらず、玄関も日中は開放している。	○	外出傾向を察知した時は見守りまたは状況に応じ職員が同行している。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜ともに職員は利用者を見守りやすい場所にて、利用者の様子を把握している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は手の届かない、目のつかない場所へ保管している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハッと報告書、事故報告書の様式が整っており、事例については全職員に周知されるようになっている。	○	利用者の行動や様子に安心せず、いつ事故が起きるかわからないことを忘れずに接していきたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜間も含め緊急対応マニュアルは作成されている。救急救命講習も受講している。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は行っているが、日頃より地域の方々の協力を得られるような働きかけは行っていない。	○	地域の人々の協力を得られるようしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりのリスクを把握すると共に対応策を家族に説明をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃より利用者の顔色や体調の変化に注意して記録に残し、職員が情報を共有できるようにしている。	○	現状通り取組んでいく。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を把握し飲み忘れや誤薬がないようにしている。薬に変更があったときは記録に残し、職員への周知を図っている。	○	誤薬・飲み忘れのないよう三度確認を行っている。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材やメニューの工夫、水分と適度の運動を促しているが、下剤の調整にて排便を促している時もある。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ひとりでできる人には声掛けを行い、介助が必要な方へは一緒に毎食後に口腔ケアを行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録している。栄養摂取状況は栄養士から指導・助言を受けカロリーバランスに配慮している。	○	カロリーを考えた上で利用者の食べたい物を積極的にとり入れていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症防止マニュアルが作成されており、学習会も行っている。	○	利用者の手洗いが習慣化するように声をかけ継続していく。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後、台所・調理台・調理器具等の消毒、清掃を行っている。食材は購入日を記入し、ため込まないようにしている・	○	賞味期限をみながら早めに使う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲の舗装がなされておらず、歩きにくい状況にある。玄関ホールには花や絵を飾っている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて花を飾り、テレビの音やホールの電気はその都度調節している、浴室は使用后、次に使う人が不快な思いをしないよう配慮している。	○	清潔感がある空間を作っていきたい。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にはソファを置き和室もあるため、個人個人の居場所の工夫はされていると思う。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居前から使用していたり、愛用していたもの等 なじみの物を持ってきてもらうよう家族に積極的 に働き掛けている。	○	場所によっては危険につながる（転倒等）ものは 家族・本人に話をし使い方を考えていく。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	温湿度計を置き、時間でチェックをしている。部 屋に空気がこもらないように、天気の良い日は窓 を開け換気を行っている。	○	冬期間は加湿器を使っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	利用者の安全に配慮し、要所に手すりを設置して いる。車いすも準備されている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	利用者の各居室には、それぞれ違うのれんを使用 しわかりやすくしている。また食器類は使い慣れ たものを使用している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	玄関先にベンチを設置しているが活用されていな い。	○	プランターなどの花を植えて楽しむことができる ようにしたいと思っている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)